

平成 24 年度臨床教育看護師育成プログラム

【臨床教育看護師とは】

看護の質向上のために、看護師と看護学生に教育的にかかわる臨床の看護教育者である。

I. 臨床教育看護師育成プログラムの目的

臨床教育看護師に期待する能力を強化する。

II. 臨床教育看護師に期待する能力

1. 看護観・倫理観・専門的知識に基づいて的確に判断し、熟練した看護技術を提供する。
2. 教育的視点を持って看護師や看護学生とかかわる。
3. 看護実践を通して役割モデルを看護師や看護学生に示し、看護の魅力を伝える。

III. 育成プログラム

臨床教育看護師に期待する能力を強化するために、二つの学習プログラムを設定する。

1. 自身の看護実践の質向上のために、臨床判断力を強化するためのプログラム
2. 部署全体の看護の質向上に向けて、部署の看護師の学びをサポートする力を強化するためのプログラム

1. 自身の看護実践の質向上のために、臨床判断力を強化するためのプログラム

到達目標	1) 看護の質とは何かを、プログラムの受講を通してそれぞれが検討する。 2) 自己の実践を分析し、人間観、健康観、環境観とともに看護観を概念化する。 3) 看護実践場面を振り返りながら、看護の意味や価値を見出し、次の看護実践につなげる方法を習得する。	
単元	課題	内容
第1 (7回)	自己の実践を分析し、人間観、健康観、環境観、看護観の概念化する。	<p>(1) ガイダンス：この単元の目標と学習概要の説明 対話：テーマ「看護師がやっていることは皆、看護か」 講義：実践における看護理論の活用</p> <p>(2) 事例報告： テーマ「看護実践においてわたしが大切にしていること」</p> <p>(3) 事例検討：事例をもとに、各自が看護の何を大切にしているかを、対話を通して分析し、自身の「看護実践においてわたしが大切にしていること」を明確化する。</p> <p>(4) 発表／対話：明確化した各自の大切にしている部分を分析し、なぜ、大切にしているのか、それは看護実践においてどういう意味あるいは価値をもつのか、対話を通して、それぞれの認知フレームを変更していく。そのプロセスで、各自が、その大切にしている部分の根底にある、自身の人間観、健康観、環境観、看護観を見出し、それを概念化していく。</p> <p>(5) 発表／対話：それぞれの概念化を通して、看護の質とは何かを検討する。 講義：医療の質評価、看護の質評価</p>

第2 (13回)	看護実践場面を振り返りながら、看護の意味や価値を見出し、次の看護実践につなげる方法を習得する。	<p>(1) ガイダンス／講義：よりよい看護実践に向けて要請される「リフレクション」とは何か</p> <p>(2) 倫理的思考、批判的思考、専門的知識（病態生理、看護診断、対象理解、看護過程、看護技術など）を、リフレクションによる事例検討を通して学ぶ。</p> <p>倫理的問題のある事例・看護実践の場面の事例→2事例を提出</p> <p>看護学科教員による講義：看護の専門性と看護技術</p> <p>講義：看護過程／ケアリング／自己と他者／倫理的思考／批判的思考</p> <p>(3) 発表／対話：それぞれの事例検討にあたり、看護の質とは何かを検討する。</p>
-------------	---	--

2. 部署全体の看護の質向上に向けて、部署の看護師の学びをサポートする力を強化するためのプログラム

到達目標	1) 看護の質とは何かを、プログラム全部の受講を通して個人が検討する。 2) 成人の学びとは、成人の学びをサポートするとは何か、理解する。 3) 職場における看護師の学びのサポート体制を知る。 4) 部署の看護師の学びをサポートするという視点で、自部署の質向上のための計画を立案する。	
単元	課題	内容
第3 (7回)	成人の学びとは、成人の学びをサポートするとは何か、理解する。 職場における看護師の学びのサポート体制を知る。	<p>(1) ガイダンス／講義：よりよい看護実践をサポートするために要請される「リフレクション」「対話」とは何か</p> <p>(2) 教育学専門家による講義：教育、成人教育、教育評価、対象者理解、対象者の立場に立ったサポート</p> <p>(3) 看護学科教員による講義：看護師養成教育の現状と課題、看護教育カリキュラムについて、看護継続教育の意義について</p>
第4 (16回)	部署の看護師をサポートするという視点で、自部署の質向上のための計画を立案する。	<p>(1) 対話：部署全体の看護の質について 個人が実践する看護の質と部署全体の看護の質とを比較しながら、部署全体の看護の質について検討する。</p> <p>(2) 院内留学（他部署で1日勤務をする） ・院内留学前 課題の提示：自部署の看護の質について考えるために、課題を明確にする→留学先の部署へ事前にその課題を提示 ・院内留学後 発表／対話：事前に出した自身の課題に、院内留学で体験したこと踏まえて、それぞれが応答する。 →その後、留学後の課題への応答をまとめ、その内容をもとに部署の担当者と簡単にディスカッションする。</p> <p>(3) 個人ワーク／グループワーク：部署の看護師をサポートする視点で、部署全体の看護の質向上のための計画を立案する。</p> <p>(4) 発表／対話：それぞれが立案した計画を、対話を通して洗練させる。</p>